かぐらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 144 号

平成23年３月24日

編集　旭川医科大学
発行　教務部学生支援課

大雪山系黒岳（上川町）　（写真撮影：学生支援課）

平成22年度学位記授与式 学長告辞…吉田　晃敏……2
医学科第33期生を送るにあたって…岩崎　寛……5
看護学科第12期生を送るにあたって
……黒田　緑……6
卒業にあたって……岡澤　友希……7
卒業にあたって……水﨑　恵……7
卒業にあたって……宮澤真依子……8
卒業にあたって……豊原　隆……8
卒業にあたって……宮田　雅大……9
医学科第33期卒業生名簿……9
卒業にあたって……坂田　菜月……10
卒業にあたって……武田なつみ……10
卒業にあたって……福西　彩加……11
卒業にあたって……藤谷孝太郎……11
看護学科第12期卒業生名簿……12
平成22年度　博士・修士学位記授与者名簿……13
一年を振り返って……齊藤　成亮……14
一年を振り返って……西村　弘基……14
一年を振り返って……山口日向子……15
一年を振り返って……上島　遥……15
一年を振り返って……佐藤　千夏……16
一年を振り返って……蛭子井　愛……16
定年退職にあたって……山内　一也……17
海外ボランティア診療に参加して…大島壮太郎……18
小林　愛実……18
川﨑　明香……19
平成22年度　１年のあゆみ……20
各種保険について……22
平成23年度日本学生支援機構奨学生の募集について …22
平成23年度看護学科学生に対する奨学資金の貸与について …22
平成23年度前期分授業料免除及び延納・分納について …23
授業料未納による除籍について……23
ギター部「ニューイヤーコンサート」……23
教員の異動……24
学生団体の「継続届」「設立届」の提出について …24
インフォメーション……24

平成22年度学位記授与式　学長告辞

志ある若者たちの、新たな挑戦・旅立ちに対し心からの賛辞を

学　長　吉　田　晃　敏

（今回はご要望により、2011年３月25日に行われた学位記授与式 学長告辞を原文のまま掲載いたします）

本日、３つの学位記授与式（卒業式）を開催し、卒業生、ご父母、そして教職員が、感動のひと時を共有出来ました事を、大変嬉しく思います。

始めに、医学科第三十三期生93名の皆さん、並びに、看護学科第十二期生67名の皆さん、ご卒業、お目出とうございます。

皆さんを今日まで、育てて来られたご父母の皆様の感慨も、ひとしおと思い、重ねてお祝いを申し上げます。

また、医学博士の学位を取得された16名の皆さん、そして、看護学修士の学位を取得された11名の皆さん、心からお祝いを申し上げます。皆さんの優れた研究業績に対し、そして指導教員と苦労を共にした努力に対し、深く敬意を表します。この学位を誇りに、高いレベルの医療人に、更に成長される事を祈っています。

さて、ちょうど２週間前の金曜日、今月11日、私達の国・日本を、未だかつて経験したことのない巨大な地震と津波が襲い、多くの尊い命が失われました。今なお、多くの方の安否が確認されておりません。

この、未曾有の大震災を前に、いま、命と向き合う医療人が、いったい「何をすべきなのか」、私も含め、皆さんもきっと、自分自身に問い続けているのではないでしょうか。

思い起こせば38年前、旭川医科大学は、医師不足、そして医療格差に悩む日本の医療に貢献する「人材育成」のために、我が国が設立した、国立大学です。

北海道のため、いや、国民の命を守るために、「何をすべきなのか」、という問いかけの中で生まれた大学なのです。

私自身、その年の第一期生として、不安と期待の入り交じった時代の風を受けながら、この大学の門をくぐった一人でございます。

以来、38年が過ぎ去りました。
医師不足は解消したでしょうか？　答えはノーです。
医療格差は解消したでしょうか？　答えはノーです。

それどころか、問題は、ますます深刻となっています。

これらの背景の一つには、国が、平成16年にスタートした、新たな研修制度もあります。

今や、道内でも至る所で、診療科の休診が相次ぎ、北海道第二の都市、ここ旭川市でさえも、現実に医師が足りないのです。

一方、看護師不足はさらに深刻です。もはや慢性的ともいえる看護師不足が、全国で続いています。今回国は、目の前で起こっている深刻な医師不足を見て、慌てて医師の増員へと舵を切った事で、事態は再び流動的になっています。

現在、年間4,400人ずつ医師の数が増えていますので、今度は一転、このまま続けば、計算上、21年後の日本は、即ち皆さんの卒後21年後には、「世界１，２を争う医師大国となる」と言われています。

このような情報を耳にする度、皆さんはきっと、自分は、どうすればいいのか、将来はどうなるのか、漠とした不安を抱いているかも、知れません。

でも、そんな不安は、今日この日に、吹き飛ばして下さい。

現実を見て下さい。

例えば、被災地では、今も、多くの人が、医師の助けを待っています。
看護師を必要としています。
医療品もない。必要な手術すら出来ない。

震災復興は、1年や2年で終わるレベルではありません。
心の傷に至っては、もしかしたら、一生涯追い続けなければならないかも、知れません。

すなわち、いま、世の中が求めているのは、他でもない、皆さん、一人ひとりの、医療人としての専門性です。

医師が不足しようが、過剰になろうが、「志を高く」持った医師や、看護師が、必要とされなくなるような時代は、絶対に、訪れることはありません。

私は、そんな「高い志」を持った医療人を育て上げるために、私たちの母校・旭川医科大学の改革を、全力で進めてきました。

一つは、皆さんの在学中に実現した、「ドクターヘリ」です。
今回の東日本大震災においても、「ドクターヘリ」は、既に被災地からの患者搬送など、緊急医療体制の最前線で大活躍しています。
このドクターヘリに関し、旭川赤十字病院が基幹病院となり、本学は協力基幹病院としてヘリポートを本学の敷地内に造るなど、運航体制を全面的にバックアップしています。
そして先月、2月からは、ドクターに加えて、ナースも搭乗しています。

そして、二つ目は、これもまた、皆さんの在学中に実現した「救命救急センター」です。
北海道からの要請を受け、病床18床、集中治療室2床、計20床でスタートしました。医師が15人、看護師が35人の強力な布陣で、高度医療の提供、そして、「救命救急医の養成」を柱に、救急医療に貢献できる態勢を整えました。

三つ目は、今年の1月に、デイ・サージャリー室を2室造ったことです。
これまで年間6,300件程の手術を11の手術室で対応してきましたが、この数字自体、本学のような600床規模の国立大学病院では、飛びぬけた手術件数です。今後、更に多くの手術を行う事が期待されます。

加えて、看護師不足の背景にある、職場環境の改善にも取り組みました。
本院に勤務する看護師に対しては、本院外での研修費用の全額を、大学が負担しております。これは、他の国立大学病院でも例がありません。

また、女性スタッフが安心して出産、育児並びに介護にも取り組める様にと、「復職・子育て・介護支援センター」も設置いたしました。

さらに、医師の皆さんの待遇改善にも、「給料のアップ」などで、取り組みました。すなわち、病院で診療に従事する医師の、初期研修医から医員、助教、講師、准教授、そして教授に至るまで、全職種を網羅して、給料のアップ、特別手当の支給に踏み切ったのは、全国の国立大学で、本学が初めてです。

これらの制度改革、並びに、3年前から取り入れ

た、数々の入試改革、「地域枠」などを通じて、私は、地域医療、とりわけ、ここ北海道の地域医療に貢献できる「人材育成」に、全力を傾けて参りました。

だからこそ、卒業式のこの日、こうして、皆さんが卒業という大きな節目を、無事に迎えられた事が、本当に嬉しく、今は誇らしい思いで、胸がいっぱいです。

皆さんは、胸を張り、志を高く持ち、新たな第一歩を踏み出して下さい。

私自身の志は、遠隔医療という形で、ひとつの実を結びました。
まだインターネットさえ普及していなかった時代から、私を一貫して支え続けたものは、「患者さんに希望の光を与えたい」という願いです。
失明寸前だった遠隔地の患者さんを遠隔医療で診察し、その結果、もう一度光を取り戻し、喜んで下さる姿を見る度に、医師である幸せを、かみしめていました。

以来、幾多の困難、障壁を乗り越えて、歩み続けています。さらに、昨年から今年にかけて、中国政府から、中国での遠隔医療の推進に力を貸してほしいとの要請があり、今、着々と進めております。
加えて、今回の「東日本大地震」においても、「遠隔医療の技術を使いたい」と、五日前、政府から私に要請があり、今、正に、計画を練っているところなのです。

さて、皆さんの「志」は、何でしょうか？

2011年３月というこの月は、我が国が直面した最悪の震災と共に、全国民の心に、深く刻まれる事になるでしょう。

医療人としての新たなステージを前に、もう一度、自分自身の胸に、「自らの志」を、今、問いかけて下さい。

大学に残って下さる皆さんとは、これから、新しいステージで、地域医療のため、大学の改革のため、世界の医療のため、共に、頑張って行きましょう。

大学を去る皆さんとは、将来、更なる改革を成し遂げたこの母校で、共に働ける日が来る事を、願っています。
もし、道に迷い、あるいは人生の岐路に立った時にはいつでも、大学の門を叩いて下さい。
旭川医科大学は、いつまでも皆さんの母校です。

志ある若者たちの、新たな挑戦・旅立ちに対して、心からの賛辞を込めて、ここに学長の告辞といたします。

卒業、おめでとう。

平成二十三年三月二十五日
旭川医科大学 学長　吉田　晃敏

医学科第33期生を送るにあたって

医学科第６学年担当　岩　崎　　寛

医学科６年生の皆さん、卒業おめでとうございます。６年間という長いようで短い期間を最北の国立大学である旭川医科大学にて、同級生ばかりでなく先輩、後輩および地域の皆さんとの交流の中で過ごされたことと存じます。この６年間の皆さんの学生生活を物心両面から支え、そしてこの卒業を迎えたことを心から喜んでいられるのは間違いなくご両親をはじめとするご家族の皆様と思います。

今後、皆さんの多くが臨床医として医療の第一線で働くことになると推測しています。医療は医師のみにて成り立っているものではなく看護師、ケースワーカーなどのパラメデカルの協調関係の仲で成り立って居ることを肝に銘じて、目の前にいる患者さんの病気、病態に対応する姿勢が重要です。このためには、医学的知識は勿論ですが、その知識を応用することの出来る知恵、そしてそれを具体化できる技術が必要であることは言を待たないが、更に重要なことは自分自身の満足感を家族と共に共有する気配りの心である。医学の知識は日進月歩の変化であり、日々の研鑽の中に身を置きその変化を楽しむ余裕や自身の進化が日常医療の質に極めて重要である。医療における優しさとは医学的知識に裏付けされた熟練の技術を気配りの心で遂行することであると思っています。日常の診療の表面にとらわれ単なる医療技術の習得にのみ精力を投入し、医学的探求心や国際人としての教養などをないがしろにすると将来必ず悔いを残すことになります。皆さんがこれから関与する医療の道は約40年余ととても長いものです。したがって、あなた方が今後の医師として仕事をしていく上で重要なことは、日常臨床診療の中に医学的心理を探求する心や人間としての高い見識を身につけていくことを同時進行的に行い医師としての品性を向上させるであろうことを忘れないことです。

私は、皆さんの臨床実習の際に仕事は何のためにするのかについてお話ししていました。それは、あなた方は医師として仕事をするのが重要ではなく、たまたま仕事が医師であることであり、医療の中での一部である医師としての役割を担うことになっただけですので傲慢な気持ちは捨てて謙虚な姿勢で出発して下さい。働くとは『傍を楽にする』が語源であるとの説もあり、いろいろな職種の人たちとの協調関係を意識してその共同作業にて、結果として患者さんの回復や家族を含めた貴方自身の満足に繋がることであると思います。常に足下に目を配り急がずにゆっくりとした医師としての人生をご家族皆様で進まれることを期待しております。

現在、医療を取り巻く情勢は大きな変動期にあり、臨床研修や専門医制度の変化、医師の偏在化など高齢化社会の中でこの先を読み切ることは困難のように思われます。しかし、どのような情勢になろうとも目先の権益にばかりに心を奪われることなく、一刻も早く学生気分を脱し、社会に於ける自己の役割を認識して、常に謙虚な姿勢で医療の道を着実に歩むことが重要です。この中で重要なポイントは『ささやかな感動』です。私たちは日常の中で空気や水のありがたさを実感することは少ないが、私は麻酔科医をしている関係で日常臨床に於ける『酸素』のありがたさを実感している。また、緩和医療に関わっている関係で『生きていること』や『トイレに行ける』ことのありがたさを患者さんから教えて頂いている。普段気がつかないご両親の優しさ、あなた方の周りにいる同級生の思いやり、そして旭川で感じた冬から春への季節の変化など『ささやかな感動』を時折感じながら医師として日常医療を行う「余裕がある時間」を過ごして頂きたいと思っています。医師は特別な職業ではありません。ふと立ち止まる時間の中で人としての感性を磨き、時折のちょっとした『感動』を実感し心豊かな医師となって頂きたいと思っています。

旭川医科大学医学科第33期の皆さん。今後の健闘を期待しています。　　（麻酔蘇生学講座　教授）

看護学科第12期生を送るにあたって

看護学科第４学年担当　黒　田　　緑

看護学科第12期生の皆さんご卒業おめでとうございます。大学生活の４年間は、人生にとって最も印象深く、また、職業人として、人生の方向を定められた価値ある４年間であったと思います。

入学当初、皆さんが様々な思いを抱いて入学されたことを思い、入学というスタートラインに立ったその後の努力が大事なのだという話をしました。その努力の結果を目の当たりにすることが出来たのは、４年次の母性看護学実習において皆さんの姿を実習場で見たときでした。実習への取り組み姿勢、対象者について真摯に考える態度、偏らない柔軟な思考、スタッフやグループメンバーとのコミュニケーションの取り方等から、本当に成長したと感じました。しかも、それぞれが自分の個性をも発揮できていました。

教育は産婆術だといった古代の哲学者がいます。教育とは相手に内在する力を発揮できるようにいかに働きかけるかであり、産婆術とは、産婦自身が子を産み出すために持っている力を、十分発揮できるように産婆が働きかけをする術です。産婆術に象徴されていますが、私は、産婆術を看護に置き換えて考えています。４年間の学習で、看護は対象に何かをしてあげることではないこと、“患者様”と呼称すれば良いことではないことは既知のことと思います。看護も、対象者の持つ能力や力をいかに発揮できるようにするかであると考えます。皆さんは看護の専門職の卵です。皆さんが対象とする方々は人間の専門職です。立場は異なる専門職同士がいかに真剣に向き合うか、これから時間をかけて考えて行ってください。

人間の社会は複雑で、おもしろくもあり悩ましくもあります。これから皆さんが所属する組織はやはり人が作り出したものです。近年、個々の能力発揮についての論説は聞きますが、組織人としてのキャリア構築の話はあまり聞きません。個の生活に陥りがちな現代人が社会に出、組織の中に身を置き、専門職としての職務を遂行することになります。看護職の新人は先ず限られた基本的看護技術を身につけることが優先されます。近年、マンツーマンの新人教育は丁寧に行われます。プリセプターの教えに導かれることで無事に当該部署に存在できます。しかし、基本的看護技術を対象者に即して提供することができるトレーニングを行うと同時に、自分の身の回りの人や物事の関係がどのようかを理解する必要があります。組織を知ることは、人を知ることにもつながり、知る努力が自然に他とのコミュニケーション場面を作ります。知られていること、知ることは自分らしい力を発揮すること（させていただくこと）につながっています。

これから、社会に羽ばたいていく皆さんに伝えたいことがたくさんあります。でもあせらないことにします。皆さん自身の経験を通して熟考し、歩を進めていくことが大切だからです。

卒業にあたって

医学科第33期卒業生　岡　澤　友　希

ここに入学する前「６年間って長いなあ」と感じていたのが、ついこの間のように感じる。それぐらいここ旭医での６年間はあっという間で、そしてとても濃いものだった。

１、２年の頃はとにかく学校生活に慣れることに必死でがむしゃらだった。特に１年の初めての物理試験は緊張しすぎて吐きそうになっていたことを今でも覚えている。３、４年になって臨床の授業が始まると、その内容の多さに愕然としつつやっと自分の興味のある分野を学べる！と毎日なんやかんや言いつつ楽しんでいた。そして実際の臨床の現場に出て実習を行った５、６年。座学だけではわからない実際の現場の様子を見て圧倒されそうになったり、外科のテスト日程を間違えて覚えていて危うくテストを受け損ねるところだったり…と思い出は尽きない。６年の後半からはひたすら国試に向けての勉強の日々だったが、そんな中同期の友人達と息抜きに遊びに行ったりしたこともいい思い出である。

また、６年間を通じての部活動の経験は自分の糧になっていると感じている。部活動での上下の繋がりは学校生活ひいては今後の社会生活において非常に大切なものだと今痛感している。この繋がりを今後も大切にしていきたい

ここまで6年間を振り返ってきたが、こんな風に楽しく思い出を振り返ることができるのも今までお世話になった大学・病院の職員の方々、たくさんのことを教えてくださった先生方、アドバイスをくれたり差し入れをしてくれたりと色々な形で応援してくれた部活の先輩後輩、最後までお互いを支え合った同期の仲間達、そしていつも私の味方でいてくれた両親のおかげだと思っている。こんなに恵まれた環境で医師になるために学べたことを心から感謝したい。これから先大変なことも多いと思うが、旭医で学んだことや得たものを大切にして頑張っていきたい。お世話になった方々、6年間本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

卒業にあたって

医学科第33期卒業生　水　﨑　　恵

もうすぐ最後の学生生活が終わろうとしている。医学科の学生は他の多くの学生よりも２年長く学生生活を送る。高校の同期たちが次々と社会人になっていっても実感がわかなかった社会人に遂に自分がなろうとしている。

そんな少し長めの大学生活を振り返ってみると、勉強に実習に部活に…実に内容の濃い６年間だった。その中でも、やはり真っ先に思い出すのは５年生から始まった臨床実習だ。それまでは漠然としたイメージしか持てなかった職業としての“医師”というものを少し身近に感じることができ、さらに「医師って本当に魅力的な仕事だな」と感じることができた。その一方で、医師という仕事の難しさ、辛さも同時に実感した。しかし、担当させていただいた患者さんから「あなたのようなお医者さんがいっぱい増えてほしいな。頑張ってね。」と言っていただいた時のことは一生忘れない。この時の気持ちを忘れることなく、これからの医師としての人生を歩んでいきたい。

もちろん部活も忘れられない思い出だ。２つの部活で、それぞれ副部長や会計といった責任ある仕事を任され、自分なりにではあるが職務を全うできたことは大きな自信に繋がった。それだけでなく、多くの素晴らしい仲間に出会えたことは何にも代え難い私の宝物だ。部活で結ばれた同期や先輩・後輩たちとの絆は、これからもずっとずっと途切れることなく続いていくものだと信じている。

そして、同期の仲間たちとの思い出も語らずにはいられない。勉強や実習では互いにわからないことを教え合ったり、飲み会を開いては空が白んでくるまで様々なことを語り合ったりと、本当に多くの刺激をもらった。４月からはそれぞれの道を歩んでいくことになるが、今後も互いに多くの刺激を与え合っていけたらと思う。

最後に…こんなに素晴らしい大学生活を私に与えてくれた旭川医科大学や関連病院の先生方・職員の方々、同期の皆、先輩・後輩、両親に心からの感謝の気持ちを伝えたい。６年間、本当にありがとうございました。これからは、そんな皆様に少しずつでも恩返しができるよう、まだまだ未熟者ではあるが医師としての道を精進していきたいと思う。

卒業にあたって

医学科第33期卒業生　宮　澤　真依子

国家試験も終わり、卒業が本当に近づいてきました。学生生活よりも医師という職業に近づいていることがまだ実感できていない今日この頃です。旭川での6年間を振り返るとあっという間の6年間でしたが、その間には勉強、部活、飲み会など様々なことがありました。大学入試で北海道の地を踏むまで1度も来た事がなく、合格が決まったときも北海道で暮らす事に現実味がない、というよりも寒さに耐えられるのか不安でいっぱいな6年前を今でも覚えています。しかし、住めば都とはよく言ったもので、食べ物はおいしいし、道路は広いし、人は温厚だし、良い事づくしの北海道での大学生活は北海道以外では出来なかったであろうことをたくさん体験することができ、価値のある6年間を過ごすことができました。

そしてやはり大きく印象に残っているのは部活です。私は女子バレー部とスキー部に所属していましたが、どちらも6年間続けてよかったな、と思える部活でした。女子バレー部もスキー部でも頼もしい先輩、かわいい後輩、そして楽しい同期に囲まれ、楽しい事も、時には失態も繰り返しましたが終わってみると部活のおかげで充実した大学生活を過ごすことができました。これからは卒業してOGになるわけですが先輩方がしてくださったように私もこれからOGとして後輩たちを支えていきたいと思います。

最後になりますが、自分を入学させてくれた旭川医科大学、基礎・臨床でお世話になった先生方、色々な面で支えてくれた同期、楽しい思い出をいくつも作った部活のみんな、色々なサポートをしてくれた職員のみなさん、ほんとうにありがとうございました。この大学生活で得られた事を少しでもみなさんに還元できるようにこれからもがんばりたいと思います。

つらい思い出よりも楽しい思い出でいっぱいの今が本当に幸せです。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

医学科第33期卒業生　豊　原　　隆

6年前、「今年は無理そうだから、あと2年頑張って駄目なら諦めよう」と思いながら旭医の後期試験をうけました。合格はほぼ無理な学力だったので、合格発表を見た時には本当に信じられませんでした。しかし、こんな自分が合格できたのは自分の天命だからなのかもしれないと思ったものです。

そんな使命感に燃えていた私がこの6年間で最も力を注いだのが弓道でした(もちろん勉強を除いてはという意味で)。当時、想像を超える先輩方の熱心さに、ちょっと付いていけないなと思っていました。しかし、気付くと誰よりも道場にいて、弓道中心の生活を送るようになっていました。ここまで弓道に熱中できたのは、お忙しい中快く指導してくださった二木順子先生、長い間弓道部を支えてきて下さった吉田逸朗先生、尊敬できる先輩方、ずっと目標にしてきた同期・半同期、かわいい後輩達、毎年熱い交流戦を繰り広げてきた北見工業大学、帯広畜産大学、札幌医科大学の弓道部や弓道を通じて出会った全ての人のおかげであり、弓道を通じて知り合えた全ての人に本当に感謝しています。

6年間色々な人に支えられて充実した2度目の学生生活を送ることができました。その中で最も感謝しているのは、母です。反対を押し切って前の大学を休学し、2年間フラフラした後、私が突然医師になりたいと言った時、母は「あんた本当に勉強が好きだね」と言い、何てことないように医師を目指すことを認めてくれました。この6年間、快く私の選んだ道を認め、応援してくれた母がいたからこそ、6年間何とかやってこられました。今までは、本当に親不孝の限りを尽くしてきてしまったと思います。これからは医師としてしっかり働き、少しでも恩返しをしていけたらと思っています。

そして、月並みですが、本当に色々な人に支えられて今の自分があります。その人たちに恥ずかしくない医師になり、北海道の医療を担っていきたいと思います。

卒業にあたって

医学科第33期卒業生　宮　田　雅　大

国家試験を終えこの原稿を書きながら6年間を振り返ると、一年生として旭医に入学してきてから「もう6年間経ったのか!?いつの間に6年間終わったんだ!!?」という驚きとともに寂しさを感じ、そしてこれから医師として働いていくことに対して不安とともに熱いものが込み上げてくる感じがします。

6年間を振り返ると決して楽しい、嬉しいことばかりとは言えませんが、自分の人生の中でとても貴重な経験を積ませてもらった6年間だったと思います。

6年間続けた部活(バスケットボール)では日々続けること、全力を尽くし切磋琢磨することでお互いに磨かれていくことを学んだと思います。また臨床実習では実際の患者さんを相手にすることで、4年生までに受けてきた授業で学んできたことが本当に大切なものであることに気づきました。それとともに今の自分では先生方のように患者を診ることはできないことを実感し、より努力していかなければならないことに気づかせてもらいました。

他にも副委員長として臨んだ医大祭、仲間と夜中まで飲み明かした飲み会など数え上げればキリがない程の大切な経験をし、また周りの人達に支えられていたからこそここまで来ることができたと今身にしみて感じられます。

「限られた貴重な青春」の使い方は本当に人それぞれで、皆と楽しい時間を過ごす人、自分磨き、目標達成のために厳しい道を歩む人、もっと広い世界を見ることで世界観を広げる人など様々ですが、どれもその人にとってかけがえのない物ではないかと思います。

後輩達には自分の青春を大切にしてもらいたいと思うとともに、先生方、同期、先輩、後輩などがいたからこそ旭医での6年間の青春があると感じています。最後に本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

卒業にあたって

看護学科第12期卒業生　坂　田　菜　月

平成19年４月、空は曇り、まだ風も冷たく少し雪が残る旭川医科大学で入学式が行われました。そして今、あの日から早４年の歳月が経とうとしています。

看護師への第一歩を踏み出し、「看護とは」から始まって学び続けてきたこの４年間はとても慌ただしく、しかし充実した毎日でした。時にはレポートに追われ、時にはテストに追われ、また、実習では自分の知識や技術の未熟さに悔し涙を流したこともありました。しかしそれ以上に実習先で出会った患者様や家族の方、スタッフの方を通して得た学びはとても大きく、嬉しかったこともたくさんありました。

そんな大学生活４年間を共にしたのは、個性溢れる賑やか(そして若干マイペース)な12期生でした。血液型対抗別大運動会が企画・実行されるなどとても楽しいクラスで(ちなみにO型の圧勝でした)、この４年間、嬉しい時も辛い時も共に時間を過ごしてきた同期達は私にとってかけがえのない存在です。こうして普段何気なく一緒に過ごし、笑いあっていたクラスメイトや先輩、後輩とも会えなくなると思うと寂しいものです。縁あってこの旭川医科大学で共に学び、同じ時間を過ごすことができたことを嬉しく思います。

そして、私達学生に知識と技術を授けて下さった先生方、部活に行く度に元気をくれたゴルフ部部員の方、そして、私の選んだ道をこれまで応援してくれた家族、その他支えてくれた多くの方々には感謝してもしきれません。私が今まで歩んできた道の全てが私の糧となっていくでしょう。これからもこの繋がりを大切に、新しい地で精進していきたいと思います。お世話になった方々に沢山の感謝をこめて、本当にありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第12期卒業生　武　田　なつみ

まさか自分にこの原稿の依頼が来るとは思っていませんでしたが、私の旭川医大での４年間を振り返ってみようと思います。

様々な期待と不安を抱えながら入学してからもう４年も経ったのかと思うと、あっという間で、同時に様々な出来事が思い出され、本当に沢山の経験を積むことができたなぁ…としみじみ感じています。

まず、この４年間で得た最も貴重なものは、様々な人達との関わりです。友人や、部活の先輩・後輩はもちろん、実習で受け持たせていただいた患者さんとの関係も、様々な価値観に触れ考えが広がり、自分を客観視するきっかけとなりました。また、患者さんからの「ありがとう」の言葉や、ネガティブな私に助言や励ましをしてくれたり、ハードな実習を共に乗り越えてきた友人の存在も、最後までめげずに学生生活を送る上での大きな支えとなり、感謝しています。そしてこの４年間のみならず、22年間私を見守り支援してくれた両親にも感謝の気持ちでいっぱいです。

次に、部活動の経験です。弓道部では挫折を繰り返しながらも粘り強く自分自身と向き合っていくことや、団体で目標に向かって突き進んでいくことの楽しさ・目標が達成された時の喜びを分かち合えることの素晴らしさを体感することができました。ギター部では、自分の好きな音楽を通して患者の方々に楽しみや癒しを感じていただくことができたのは今までにない喜びとなり、病みつきになるものでした。特に３学年時には部長として、部をまとめコンサートの企画を先導して行い、結果として患者の方々から数々の嬉しい言葉をいただくことができ、貴重な経験となりました。私は旭川医大病院への就職が決まっているので、今後も何らかの形で関わって行けたらなぁと思っています。

このように、旭川医大での４年間は勉強だけではなく本当にたくさんのことを学び、充実した日々を送ることができました。ありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第12期卒業生　福　西　彩　加

国家試験を終えて少しほっとした今、改めて卒業することを考えてみると4年間はあっという間だった気がします。まだ学生として多くのことを学びながらもう少し遊びたいという気持ちと、早く看護師として多くの患者さんに接しながら働いてみたいという気持ちがあり、少し複雑です。

1年生のころ初めて『看護学』を学び、何度も「看護とはなんだろうか」ということを考える機会がありました。また、「私の看護観」というレポートを必死になって考えながら書いたという記憶があります。1年生の頃から看護について考え実習を行なうたびに悩みながら4年間を終えました。学年が上がるにつれてできることが増えたり、患者さんについて考えることができ、少しは成長できた…と感じていますが、まだまだ知らないことの方が圧倒的に多いと感じています。

勉強の面だけでも充実した4年間でしたが、私の学生生活がもっと充実したものになった理由として部活動があります。定期的に行なわれる演奏会を行なう中で、聴きに来てくださった患者さんに「楽しみにしている」や「ありがとう」などのお声をかけて頂くことが何度かあり、私はそのたびに演奏できてよかったと思えました。治療を続けている患者さんが少しでも入院生活の中で楽しいと思える時間を一緒に共有できるという部活に所属できて本当によかったと思っています。また、困ったことを相談でき、一緒にストレスを発散することのできる友人ができたことも学生生活が楽しかった理由だと思います。

卒業後は、それぞれの道へ進んでいくことになりますが、私は旭川医科大学病院への就職が決まっています。まだまだ学生生活では学びきれていないことを実際の臨床現場で学んでいきたいと思っています。そこで学んだことを今度は実習でくる後輩達に教えることができるように頑張りたいと思います。

4年間私を支えてくれた多くの方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第12期卒業生　藤　谷　孝太郎

入試後に温かいお茶を配って「お疲れ様でした」と声を掛けてくれた先輩のあの優しさにあこがれて旭川医科大学に入学して、もう4年もの月日が流れてしまいました。

東京という土地から一人でしかも周りのみんなよりは少し年上で、その上男子の少ない看護科という不安な要素をたくさん抱えての大学生活のスタートでしたが周りのみなさんの協力のおかげでどうにかこうにか無事に4年間の学生生活を過ごすことができました。

この4年間を振り返ってみれば様々な思い出がありますが、その思い出には常に同期の姿がありました。ベッドメイキングの三角コーナーがうまく作れなくて夕方まで練習した時も、実習の記録が終わらなくて遅くまで情リテにいた時も、学祭で飲み屋をやった時も、実習の打ち上げの時も、厚岸のカキ祭りに行った時も・・・。時にはお互いの意見や考えが合わなくて言い合いをしたりしたこともあったけれど、今思えばこのような同期に巡り合えたことはとても幸せなことであり、同期とお互いに切磋琢磨してこれたからこそ今の自分があるのだなと思います。4月からはみんな様々な進路に進みそれぞれの道を歩んでいくのですが、同じこの旭川医科大学で4年間を過ごした仲間がいると思うと、どこか心強く思えます。そしてこの同期とのつながりをこれからも大切にして、お互いが切磋琢磨し合える仲間であり続けられたらなと思います。

最後になりましたが生意気な自分をいつも温かくご指導してくださった先生方、実習でお世話になった実習指導者さん・患者さん、学生生活をサポートしてくださった学生支援課の方、いつも一緒にいてくれた同期、学生生活を支えてくれたその他大勢の方々にこの場を借りて感謝したいと思います。4年間本当にありがとうございました。これから先も自分自身と向き合いながら、患者さんの『痛み』がくみ取れるような医療者であれるよう日々勉強に励んでいきたいと思います。

平成17年度 医学科入学式

平成18年度 医学科第２年次後期編入学式

平成19年度 看護学科入学式

新入生研修会

旭川医科大学大学院医学系研究科　学位記授与者名簿

平成23年３月25日付

氏　　名	課程・論文の別	専　　攻	学　　位
奈　田　利　恵	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
北　　雅　史	課　程　博　士	細胞・器官系	博　　士　（医　学）
森　　健一郎	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
奥　村　俊　介	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
北　尾　直　也	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
笹　島　順　平	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
中　林　征　吾	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
石　居　信　人	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
大　前　恒　明	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
AGATHE NKOUAWA	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
Ali Abd Al-karim Talib	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
浅　利　　優	課　程　博　士	医　　学	博　　士（医　学）
上　田　征　吾	論　文　博　士		博　　士（医　学）
野　村　研一郎	論　文　博　士		博　　士（医　学）
安　栄　良　悟	論　文　博　士		博　　士（医　学）
迫　　康　仁	論　文　博　士		博　　士（医　学）
藤　田　麗　子	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
内　島　みのり	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
釜　本　由希子	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
塩　川　幸　子	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
嶋　田　あすみ	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
鈴　木　笑　佳	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
千　葉　晴　美	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
土　山　奈津江	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
原　谷　珠　美	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
森　川　由　紀	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）
小　野　聡　子	修　士　課　程	看　護　学	修　　士（看護学）

一年を振り返って

医学科第１学年　齊　藤　成　亮

昨年度のOA入試で旭川医科大学に合格し、入学したのが今からおよそ１年前。この文章を書くにあたり、今改めてそう考えると、今年１年はあっという間に過ぎ去ってしまったように感じます。

入学当初は不安だらけだった私ですが、今では多くの友人や先輩方に囲まれ、充実した大学生活を送ることができています。大学に入学してから、全国各地から集まったたくさんの友人ができました。そういった人達と関わる機会は、私にとって良い刺激になりました。また、部活動では、同期の仲間や先輩方と共に、全力で野球に打ち込んでいます。先輩方は野球のことだけでなく、学校生活のことも含め様々なアドバイスをしてくださり、私にとって大きな支えとなっています。大学に入学する前は、それほど部活動に打ち込もうとは思っていませんでしたが、自分の好きなことをしていると、たとえ大変でも毎日が楽しく、充実していたように思います。

一方で、この１年間を通して、部活動だけでなく学業にも力を注ぎ、両立に努めました。大学での勉強は高校までとは違い、量が多いだけでなく、内容も難しく、非常に苦労しました。試験やレポートに追われる中、一緒に勉強し切磋琢磨する友人や、質問に対して熱心に答えてくださる先生方のおかげで、なんとか乗り越えることができました。また、コミュニケーション実習やチュートリアル、早期体験実習などを通して、１年生ながら医学に関する分野に触れることもでき、高いモチベーションを保ちながら勉学に励むことができました。

来年度は学年が１つ上がるということで、さらに環境が変わります。後輩もでき、そして、勉強の内容も医学に関する分野が増えてきます。自分が先輩方にしていただいたように、多くの面で後輩や仲間を支えられるよう、また、学業面でも、より難しくなる内容に対応するべく貪欲に自ら進んで学ぶ姿勢を身に付けられるよう、努力を怠ることなく大学生活を送っていきたいと思います。

一年を振り返って

医学科第１学年　西　村　弘　基

入学した時は新しい生活に不安だった私も、１年間が経ち、一人暮らしにも慣れてきました。この１年は優しい先輩や友人のおかげで楽しく過ごすことができました。そんな楽しかった１年を振り返ってみようと思います。

入学当初から先輩方には優しくしていたいただき、またよき友人にも恵まれたおかげで春から充実した生活を送ることができました。この大学には、他大学を卒業した人、現役の人、浪人の人など様々な人がいます。春からいろいろな人に積極的に関わっていくことでよい人生経験になったと思います。特に部活に入ったことは本当に勉強になりました。部活に入ると体力が鍛えられるだけではなく、精神的にも鍛えられます。OB、OGの先生方と関わることは高校まででではほとんどなかった社会人と関われる機会なので非常に貴重な経験です。

大学の勉強は、高校までと全然違うことに最初は戸惑いました。高校まででは勉強しないような科目があったり、覚える知識のレベルも非常に高く理解に時間がかかり、そして何より暗記する量が膨大でした。そんなつらい勉強のときに一番支えになったのは友人でした。友人たちと協力し合って勉強することでつらいテスト期間を乗り切れたように思います。１年生で学ぶことはこれから医学を学ぶ上でのごく一部かもしれませんが、それでもこの一年で自分の目標である医師に近付けたことということは喜びです。

この一年、つらいことも多くありましたが、楽しいことの方がずっと多かったように思います。部活の先輩方とバーベキューをしたり、友達と星を見に行ったり、高校ではできなかったようなことが大学では体験できます。そんな体験の一つ一つが私にとっては貴重なものであり、思い出になっています。卒業まであと５年間ありますが、自分を成長させてくれる体験をもっともっとしたいと感じました。

一年を振り返って

医学科第１学年　山　口　日向子

この１年を振り返ると、常に何かしらに追われ、忙しく過ごしていた感じがします。入学式で学長先生から頂いた、「医大に入学したからといって医師になれると思うな」というお言葉を胸に刻み、日々の講義はもちろん定期試験前には友人と一緒に夜遅くまで必死に勉強することもありました。時には息抜きに思い切り遊んだり、「この科目は果たして医師になるのに必要なのか」と疑問に思いながら勉強したこともありましたが、勉強を中心に生活をすることは、自身が大学生になったのだと実感する処でもあります。また、大東流合気柔術部での活動や、大学で新たに出会った大勢の人たちとの関わり合いのおかげで、大学生活が決して勉強ばかりのものにならず、充実した１年間を過ごすことができました。

特に、人との出会いは私にとって、もしかすると勉強よりも多くのことを学ばせてくれた大切な要素です。同期には、現役生や浪人生はもちろん、他の大学から再受験で入学した人や大学を出てしばらく会社勤めをしてから医師を志した人など、実に幅広い年齢の人がいます。そんな人たちとの関わり合いの中で、現役で合格した私は自分の見識の狭さを実感し、様々な人生の形を知ることができました。また、年齢層の広さだけでなく全国各地から学生がやってくるのも旭川医大の特徴で、北海道の僻地で生まれ育ち、「僻地医療」しか頭に無かった私の世界を、同級生はまた広げてくれました。クラスメイトは卒業までほとんど変わりませんが、とても良い同期に巡り合えたと感じています。

学年が上がるにつれて、また新たな人との出会いが増えてきます。この１年を振り返って思うのは、勉強においても人との関わり合いにおいても「教わる」ことばかりで終わっていたということです。「自ら学ぶ」、また誰かに何かを「伝える」ことが出来る人間になることを次の１年の抱負としたいと思います。

一年を振り返って

看護学科第１学年　上　島　　遥

早いもので私がこの旭川医科大学に入学してから１年が経とうとしています。振り返ってみると１日１日すべてが充実していて、あっという間に過ぎてしまったように感じます。忙しい毎日で、不安もたくさん抱きましたが、たくさんの友人や優しく時に厳しい先輩方、素敵な部活に恵まれ、本当に楽しく過ごすことができました。またこの１年で実習や定期テストを乗り越え、「看護」というものについて１年間共に学んだ看護学科みんなの絆は強いものになりました。特に１年の集大成であった後期期末試験の際にはみんなで学校で勉強したり、追試になったクラスメイトに差し入れをしたりなど、看護学科のみんなの存在の大きさや優しさ、そして大切さを実感しました。これから残りの３年間もこの60人の仲間たちと一緒に看護を学んでいきたいと強く感じました。

授業では高校時代のように想像以上に時間割がつまっていたり、慣れないレポートに追われ心が折れそうな時もありました。しかし、座学だけではなく生徒同士で行う専門的な技術の演習もあるため、看護には必ず相手が存在するんだということを常に意識して、より実践に近い看護を学ぶことができているように感じます。また、それに加えて早い時期ではありますが、基礎看護学実習もあり、それを通して自分自身の勉強不足を実感し、看護に対するモチベーションを上げることもできました。そして実習中の先生方や看護師さんたちの行動・言葉からもたくさんの学ぶことや感じることがあり、自分の中で看護について新たな視点や考えも持つことができました。そして何より患者さんたちの「これから頑張ってね」や「いい看護師さんになってね」という言葉が今の私にとって大きな励みになっています。

これからの３年間は今年よりも充実した日々になると思うので、仲間を大切にして一瞬一瞬を無駄にしないよう、楽しみながらも成長していきたいなと思います。

一年を振り返って

看護科第１学年　佐　藤　千　夏

４月に入学したのがつい先日のように覚えています。この１年は本当にあっという間に感じました。親元を離れ、一人暮らしをして初めてのことばかりの日々はとても新鮮でした。入学して、初めて大学の講義を受け、部活を見学し、同じ夢に向かう友達・先輩との、何気ない日々は私にとってすべてが学びの場となっていました。

入学して１・２週間は、学内のどこを通ったらいいのかわからず、毎日探検をしているようでした。入学して初めての行事であった新歓合宿は、優しい先輩たちと、医学科の人と初めてちゃんと話すことができたことを覚えています。そこから、様々な人と関わることができ、また人との関わりの大切さを知りました。

私は、水泳部に入部し、バイトも始めました。部活には初めから入ろうと思っていましたが、水泳部とは決めていませんでした。しかし、同期からの勧めや、先輩の優しさに触れ、入部を決意しました。入部してからというもの、練習・大会・イベントと毎日忙しいけど楽しい日々が待っていました。バイトはすること自体が初めてだったのですが、自分でバイトを探し、電話して面接しバイトをすることの大変さにも気づかされました。しかし、個人のお店なので、一から教えてもらい、今でもわからないことがあるものの少しは慣れてきました。大学以外の場でも、学ぶことの多さにも気づかされました。

勉強も、家のこと、部活、バイトと忙しい中時間をみつけてしています。試験前になると焦るのはいつものことですが、自分の夢のための勉強と思うと自然と頑張ることができるものです。また、７月に行われた基礎看護学実習で看護の大切さとそれと同じくらい難しいことにも気づかされました。そして、自分は絶対この仕事をするという強い気持ちも出てきました。この気持を強く持ち、さらにそのために学内の生活も大切にしながら、これからも成長しながら、過ごしていきたいと思います。

一年を振り返って

看護科第１学年　蛭子井　　愛

期待に胸をふくらませ、旭川の地にやってきてから、早くも１年が経とうとしています。旭川医科大学で過ごした毎日は、１日１日が濃い内容のものばかりで、とても充実した学生生活を送ることが出来ました。高校での勉強は、数学や国語など受験に必要なことを中心に勉強していたので、将来に繋がっている感じがなく、あまり勉強に身が入らないことがよくありました。しかし、大学での勉強は、どれも看護師になるために必要なものばかりで、１つ１つが将来につながっているんだなと思うと、勉強に対する意欲も出て、勉強に対する姿勢が変わったように思います。特に、基礎看護技術学Ⅰでは、生徒間で援助役と患者役にわかれ、実際に看護技術を練習することによって、技術を得ることだけでなく、どのように援助すれば患者さんは安楽であるかなど、患者さんのことを第一に考えることも学ぶことが出来ました。まだまだ学ばなければいけないものはたくさんあるので、これからも学習に対する高い意識を持ちながら授業に臨みたいです。また、勉強面だけでなく、友人関係や先輩との繋がりも充実したものになりました。地元とは違う旭川の暑さや寒さに、体調をくずすことがありましたが、その時は、差し入れを持ってきてくれたり、テスト前には、先にテストが終わった先輩などから差し入れをもらったりと、旭川医科大学には、いい人ばかりいるなと心温かい気持ちになることがたくさんありました。そんなすてきな人達と出会えることが出来たので、改めてこの大学に入ることが出来てよかったと実感しました。高校とは違いいくつもの部活やサークルに入ることが出来るので、交流の輪が広がり、いろんな学年の先輩がたや同期とコミュニケーションをとり、いろんな人と触れ合うことの出来た１年になりました。人と人との繋がりをこれからも大切にし、同じ看護師を目指す仲間達とともに励まし合いながら、充実した学生生活を送っていきたいです。

定年退職にあたって

数学　教授　山　内　一　也

平成23年３月31日をもちまして定年退職することとなりました。平成３年４月１日付で一般教育数学の第２代教授（初代は、故　安田　博教授）を担当することとなって以来、20年間旭川医大に在職したことになります。本学に採用いただき、多くの方々に御支援、御協力いただきながら存分に仕事をすることが出来ましたことに深く感謝申し上げます。

前任地の鹿児島大学では18年間在職し、大学教員として38年間を過ごしたことになります。山々はまだ雪景色の北海道から、海、空はもう夏景色の鹿児島大学に赴任したその日の夜、歓迎会を開いてくれました。誰一人知っている人もなく、方言の強い鹿児島で日本語が通じるのだろうかと不安な気持ちもあってのですが、すっかり打ち解けて焼酎に酔いしれたのも懐かしい思い出です。その日の夜は大学構内の宿泊施設に泊まったのですが朝目を覚ますと男子学生が傘をさして歩いている姿が目に飛び込んできました。これはとんでもない所に来てしまった、男子学生が日傘をさして歩くほど暑いところに来てしまったと驚いたのですが、実は桜島の灰が降っていたのです。新燃岳の噴火が話題になっていますが、鹿児島大学在職中桜島の降灰には悩まされ続けておりました。ハイサヨウナラというわけではないのですが、縁あって旭川医大に来ることになりました。旭川の地は学生時代に通過したことがあるだけなので鹿児島から赴任して来たときは新鮮な気分でした。そして何年たっても自慢したくなるのが真っ青な大空の下、白く輝く大雪連山、十勝連山の雄大な眺望です。旭川医大は恵まれた自然環境の下にあるということを実感しているのは私一人ではないでしょう。

教育の面では、この間2000人以上の学生に対して数学、統計学の講義、統計学の実習をしてきたことになります。最初の頃の学生はすでに30代後半になり、頼もしい医師・医学者として活躍していることはうれしい限りです。

卵の表面あるいは馬の鞍のような曲った曲面はリーマン空間と考えられます。このリーマン空間上の２点を結ぶ最短線を測地線と言います。測地線を不変に保つようなリーマン空間上の変換を射影変換と言います。球面のようにすべての点で曲がり具合が一定であるような空間を定曲率空間と言います。私が取り組んだ問題は「射影変換群を許容するリーマン空間は定曲率空間に限るか」という問題です。この問題を肯定的に解決することを目標としました。ある程度までは解決することができたのですが、残念にも、2007年にドイツ人の若い人に解決されてしまいました。

大学の管理運営に関しては、平成13年から図書館長を２年４か月努めました。図書館としての外部予算の獲得や市民コーナーの設置などを行ったことが思い出されます。平成19年から入試及び評価担当の副学長及び入学センター長として入試改革に取り組んできました。地域医療の崩壊が言われる中で医学部入学定員に地域枠を設けるという案が検討され、本学も平成20年度入試から定員５名の道北・道東地域枠推薦入試を行うこととなっておりましたが、吉田学長の強いリーダーシップの下でその定員を10名に変更したことが、副学長になって直ぐのことでもあり強く印象に残っております。

法人化されて６年が経過し、大学評価の第１期目が終了し確定評価を受けなければなりませんが良い評価であることを願っております。（この「かぐらおか」が発行される頃には評価が確定しているのではないかと思います。）

最後になりますが、今後とも旭川医科大学が日本の北の大地できらりと光り輝く大学であり続けることを願っております。長い間本当にありがとうございました。

海外ボランティア診療に参加して

ベトナムボランティア診療に参加して

医学科４年生　大島　壮太郎

ホワイトクリスマスの旭川からベトナムに飛ぶと、そこは気温30℃の世界。日本にはない、ゆったりとした穏やかな時間が流れています。松田教授率いる私たちボランティア軍団のミッションは、現地の病院での口唇口蓋裂手術。麻酔科医、看護師も専門性を活かして参戦します。われわれ学生も、手術場で助手という大役を体験しました。

「自分にできる専門技術ってなんだろう?!」私は日本ホスピタルクラウン協会認定クラウンとして、普段から月２～３回小児病棟をまわって活動しているので、その特技を活かして現地でも子供たちに楽しんでもらいました。障がい者学校でクラウンとして赤鼻をつけ、手の中でボールを増やす手品や風船細工を披露！　子供たちの素直でまっすぐな笑顔が忘れられません。

今回、たくさんの貴重な体験をし、日本の医療現場がいかに恵まれているかを実感しました。将来、医療者として海外で貢献できるかもしれないと考えると、夢がふくらみます。今講義室で日々学んでいることが将来の夢につながっているのだと考えると、ますます胸を張って頑張っていきたいと思えるようになりました。

学生の海外活動を支援してくださる吉田学長を始めとした教職員の皆様、そして、ボランティアを共にしたチームの皆様に感謝!!

ベトナム診療隊活動報告

医学科５年生　小林愛実

2010年12月24日。クリスマスムード一色の街を通り過ぎ、私は朝９時のJRに乗り込みました。行く先はベトナムです。

日本口唇口蓋裂協会では、国際的な医療援助の一環としてベトナム社会主義共和国で毎年手術を行っています。松田光悦教授は協会の要請を受けて、毎年参加していますが、今年は学生の募集もあり、私は学生ボランティアとしてご同行させて頂きました。

私がこの活動に参加した動機として、他国の医療を体験し、比較することで患者さんと医師の関係や、医療資源などを客観的に見る力を養いたいということがありました。自身の仕事としましては、先生方の補助が主な仕事で内容は多岐に渡りました。診察での誘導、器具の滅菌や準備、カルテの管理やリカバリーでの補助などです。

活動を通して、個人的な目的の他にチーム医療を実感できたという大きな収穫がありました。今回参加したのは口腔外科医、形成外科医、麻酔科医、看護師を含む48名です。昨日まで互いを知らなかった集団が、翌日から多くの手術が控えている状況です。その中では個々のお互いに対する気遣い、協力がなければ無事に活動を終えることができなかったと思います。そのような現場を肌で感じ、医療者としてあるべき姿を再考しました。

今回の参加に際しまして吉田学長、松田教授、また大学側には多額の助成金を頂き、大変感謝しております。これからも積極的に仕事に取り組み、今まで私に勉強させて頂いた方々に感謝し還元していきたいと思います。ありがとうございました。

『ベトナムでの口唇口蓋裂 医療援助ボランティアに参加して』

医学科６年　川﨑　明香

本活動は、全国各地から集まった医療スタッフが医療チームを組み、ベトナムで口唇口蓋裂の患者に診察・手術などの医療援助と現地医療スタッフへの技術指導を無償で行うものである。学生ボランティアとして参加し、診察や手術の介助、手術室の設営や器材の準備などを行った。

今回のベトナムでの医療活動を通して、ベトナムの生活状況や医療事情を少しではあるが知ることができた。急速に経済成長している傍ら、都市部と農村部で拡大している貧富の差。貧困のため病院にかかれず、適切な医療が受けられないまま放置されている子供達。特に今回訪れたベンチェ省は、ベトナム戦争による枯葉剤の被害を大きく受けた地域の一つであり、先天異常児の発生率が高い。しかし、それに対する医療整備はまだまだ遅れている。実際に病院には大勢の患者が集まり治療を待ち望んでいたが、限られた時間の中で行われる手術件数には限度があり、今回は治療を見送らなければならない患者が多数いた。今後もこのような無償の医療支援と技術指導を継続する必要性を痛感した一方で、治療を受けた患児や家族の嬉しそうな笑顔をみると、この医療活動の意義の大きさを感じる事ができた。

学生生活の最後に、この医療チームの一員としてこのような活動に参加できたことは、私にとっても今後の人生において貴重な経験となった。

平成22年度　1年のあゆみ

入学式
4月6日（火）

医学科入学者　112名
看護学科入学者　60名
看護学科3年次編入学者　10名

入学式の朝

入学式

新入生合同研修会
4月7日（水）
8日（木）

BLS+AED

手話の演習

第35回 医大祭
6月11日（金）
12日（土）
13日（日）

ゲームコーナー

模擬店

フリーマーケット

体験コーナー

第57回 北海道地区大学体育大会
7月16日（金）
17日（土）
18日（日）

男子バスケットボール

女子バスケットボール

男子バスケットボール表彰式

女子バスケットボール表彰式

音楽の夕べ
7月24日（土）

JAZZ研究会

室内合奏団

天城越え

合唱部

ブラスアンサンブル

平成22年度　1年のあゆみ

バスケットボール

体育大会
9月2日（木）

バレーボール

ソフトボール

サッカー

解剖体慰霊式
9月15日（水）

医学科第２年次後期編入学生入学式
10名
10月1日（金）

学位記授与式
3月25日（金）

医学科第33期生	93名
看護学科第12期生	67名
医学博士	16名
看護学修士	11名

室内合奏団　12月18日（土）

クリスマスコンサート

合唱部　12月18日（土）

ブラスアンサンブル　12月19日（日）

各種保険について

○本学医学科学生が加入する保険の概要は、下記の図のとおりで①から③の３階建てとなっております。

③　学研災付帯学生生活総合保険Ａ･Ｂタイプ　※３階部分	
内容	傷害・損害賠償を24時間補償＆針刺し事故を補償
補償金額	死亡補償金　Ａタイプ・Ｂタイプ　300万円 対人賠償　Ａタイプ・Ｂタイプ　１億円限度 対物賠償　Ａタイプ・Ｂタイプ　１億円限度 感染予防費用　保険期間中50万円
掛金	別表のとおり。
加入	医学科第１～４学年の４年間は任意加入ですが、臨床実習が４学年後期からあるために２年２月間の保険加入を義務付けています。なお、入学時に６年間加入をしてもかまいません。 ※学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）に加入していること。

②　医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）　※２階部分	
内容	正課中、学校行事中、通学中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償
補償金額	対人賠償と対物賠償合わせて１事故につき１億円限度
掛金	６年間 3,000円　５年間(編入学生) 2,500円(1年間500円)
加入	入学時加入を義務付けている ※学生教育研究災害傷害保険に加入していること

①　学生教育研究災害傷害保険（学研災）　※１階部分	
内容	正課中、課外活動中、通学中及び学校行事中に本人が傷害等の事故にあった場合。 臨床実習中に接触感染症予防措置を受けた場合。
補償金額	死亡補償金　正課中　2,000万円 課外活動中　1,000万円 傷害補償金　正課中　治療日数１日から 通学中・学校施設等相互間の移動中　治療日数４日以上から 課外活動中　治療日数14日以上から 入院　１日　4,000円 接触感染予防保険金　臨床実習中　１事故につき　15,000円
掛金	６年間 4,800円　５年間(編入学生) 4,130円
加入	入学時加入を義務付けている

詳細については、学生支援課学生係にお尋ね願います。

本学では、学生諸君の学生生活及び日常生活に対して上図のような保険を用意して、加入を薦めております。

①学生教育研究災害障害保険（学研災）は、学生生活中に負った本人の傷害等の保険です。加入を義務付けております。

②医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）は、学生生活中に他人から損害賠償を求められた場合の賠償補償保険です。加入を義務付けております。

③学研災付帯学生生活総合保険Ａ・Ｂタイプは、日常生活24時間をカバーする傷害保険と賠償補償保険です。

医学科第１～４学年の４年間は任意加入ですが、臨床実習が４学年後期からあるために２年２月間の保険加入を義務付けています。なお、入学時に６年間加入をしてもかまいません。

○平成23年に入学する本学看護学科学生が加入する保険の概要は、下図のとおりとなります。

(1)　看護学科学生Will２保険（看護学科学生対象）

本保険は、正課中、学校行事中、課外活動中及び通学中における事故により、学生本人が身体に傷害を被ったとき、また、他人を負傷させたり、他人の物を壊したことによる法律上の損害賠償を補償し、実習中における感染予防措置費用等を補償する保険です。この保険は、加入を義務付けております。

①　看護学科学生Will２保険	
内容	傷害・損害賠償を24時間補償及び実習感染予防費用
補償金額	死亡補償金 236万円　対人賠償１事故　１億円限度 入院保険金 5,000円　対人賠償１事故　１億円限度 通院保険金 3,000円　感染予防費用 50万円限度
掛金	4,500円（１年間）
加入	本保険は、大学として加入を義務づけております。なお、契約期間が１年間のため本学では、入学時に４年間分また、編入学生は２年間分の保険料を入学時に徴収し、大学として契約手続きを行います。また、契約更新時も大学で手続きを行います。

平成23年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

平成23年度の募集説明は４月13日(水)午後５時から看護学科大講義室において実施します。希望者は必ず出席してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

平成23年度看護学科学生に対する奨学資金の貸与について

本学では、看護学科に在籍する学生に対して経済的支援を行うことにより、学習に専念できる環境の整備を図るため奨学資金を貸与しています。

奨学資金の概要はつぎのとおりです。

○貸与対象者　看護学科学生

○貸与月額　35,000円

○返還　貸与を受けた期間と同等の期間内に、一括または分割で返還

○返還免除要件　被貸与者が卒業後直ちに、本学病院に常勤の看護職員として勤務した場合は、勤務月数に相当する月数分の返還を免除

貸与を希望される方は、看護学科事務室へお越しください。申請書等をお渡しします。

申請書配布　平成23年４月１日(金)～平成23年４月22日(金)

申請期限　平成23年４月28日(木)まで

なお、在籍者（休学者又は留年者は除く）についても、貸与の申請を毎年行うこととなっております。ご注意ください。

平成23年度　前期分授業料免除及び延納・分納について

平成23年度前期分授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生支援課学生総務係にて必要書類を受け取り、申請期限までに提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

○経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ学力優秀と認められる場合

○授業料納期前６か月以内において学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難であると認められる場合

なお、このことについては、公用掲示板にも２月10日(金)より掲示してありますので確認してください。

また、不明な点は、学生支援課学生総務係に問い合わせ願います。

申請期限　在学生　平成23年４月７日(木)
　　新入生　平成23年４月12日(火)

※授業料滞納者の授業料免除申請は、受理できませんのでご注意ください。

授業料未納による除籍について

授業料を２期滞納し所定の期日までに納入されない場合には、除籍となります。

この取扱いは、平成17年度から適用されていますので、平成23年４月１日において授業料を２期以上滞納している場合、平成23年９月30日をもって除籍となります。

以後授業料納期である６か月ごとに適用されますので、授業料の支払計画をきちんと立てるようご留意ください。

ギター部「ニューイヤーコンサート」

平成23年１月22日(土)午後３時から病院玄関ロビーにおきまして、本学の学生団体ギター部によります「ニューイヤーコンサート」が開催されました。当日は、準備や開催のお知らせにあまり時間が無かったので、来場していただく人数も心配されましたが、予想を越える数の来場者となりました。全７曲の演奏となりました今回のコンサートは、後期試験の勉強を前に日頃の練習の成果の披露と入院されている皆様に寒い冬のひと時をギターの音色と歌声で癒していただくことを目的に企画されたコンサートです。

押尾コータロー作「風の詩」の演奏から始まり、「神田川」や「見上げてごらん夜の星を」などの耳なじみの曲が次々と演奏され、来場された皆様からの暖かい拍手や手拍子が贈られ盛況のうちに終了しました。

また、３月５日(土)午後１時からは、同部によります「懐メロコンサート」が開催されました。このコンサートは、３月25日(金)に卒業式を迎える部員が参加するラストコンサートとして企画されたもので、今年の開催が３回目となりました。当日は「加山雄三メドレー」や「なごり雪」などが演奏され、来場された皆様に懐かしい昭和のメロディを楽しんでいただき沢山の拍手が贈られて終了しました。

教員の異動

H22.12.31	辞　職	病　院	精神科神経科	講　師	石丸雄二
H22.12.31	辞　職	病　院	放射線科	講　師	稲岡　努
H23. 2. 1	採　用		脳機能医工学研究センター	准教授	船越　洋
H23. 2.17	昇　任	医学部	（英語）	准教授	三好暢博
H23. 2.17	昇　任	医学部	（心理学）	講　師	池上将永
H23. 2.28	辞　職	病　院	第三内科	講　師	佐藤一也
H23. 3. 1	昇　任	病　院	（第三内科）	講　師	生田克哉
H23. 3.10	昇　任	医学部	（寄生虫学講座）	講　師	迫　康仁

学生団体の「継続届」「設立届」の提出について

平成23年４月以降に学生団体活動（部活）を継続する団体の責任者は、４月中に「学生団体継続届」を学生支援課学生総務係に提出して下さい。なお、継続届を提出しない団体は活動を停止したと判断し廃部とします。

また、新規に学生団体の設立を希望する学生は４月中に学生支援課学生総務係に「学生団体設立届」を提出して下さい。なお、設立届の提出時に活動内容等に関する説明を求める場合がありますので「活動内容が同じ様な団体がある」等、安易な団体設立は避けて下さい。各届出用紙は学生支援課にあります。

インフォメーション

平成23年３月25日（金）	平成22年度　学位記授与式（10時30分）
４月６日（水）	平成23年度　入学式　　（10時00分）
４月７日（木）	医学部医学科・看護学科新入生合同研修会（第１日目）
８日（金）	医学部医学科・看護学科新入生合同研修会（第２日目）
４月９日（土）	新入生歓迎実行委員会主催　部活紹介　新入生歓迎合宿
４月13日（水）	学生定期健康診断　医学科第４学年　看護学科第３学年
20日（水）	学生定期健康診断　医学科第１学年　看護学科第２学年
26日（火）	学生定期健康診断　医学科第３学年　看護学科第１学年
５月11日（水）	学生定期健康診断　医学科第２学年 ※医学科第５学年・第６学年、看護学科第４学年および大学院生また外国人留学生は、上記日程の都合の良い日に受診すること。 （学生玄関ホール　受付時間　12時30分～14時30分）
６月10日（金）	大学祭「医大祭2011」（前夜祭）
11日（土）	大学祭「医大祭2011」（一般公開　第１日目）
12日（日）	大学祭「医大祭2011」（一般公開　第２日目）